2013年11月17日 新潟日報 朝刊 広告３面 028頁

(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

歩きたくなる街創造

スマートウエルネスシティ健幸シンポ in 新潟

歩くことにより病気を予防し、誰もが健やかで幸せに暮らせる街づくりを考える「スマートウエルネスシティ（SWC）健幸シンポジウムin新潟」が10月22日、新潟市中央区のりゅーとぴあで開かれた。初めにSWCを推進する筑波大学大学院の久野譜也教授らが歩行の大切さ、街中に歩行者空間をつくった欧州の街並みについて報告。その後、SWCに取り組む3市・1団体を交えて座談会を行った。その中で、新潟市は全国に先駆けて公道に自動昇降式の車止め「ライジングボラード」を設置したことを発表した。文中は敬称略。

企画・制作／新潟日報社企画事業部

トークセッション

久野　街中のハードを整備しても、人はなかなか歩いてくれない。市街地ににぎわいを取り戻すポイントとは。

久住　街の中に行きたくなるような空間が必要。見附市でも空き店舗を利用して市民交流センター「ネーブルみつけ」を造り、年間50万人も訪れる。街の中心に集まりたくなる核となる施設を作っていくことが不可欠ではないか。

仁志田　「用事がある」「行きたいところがある」というのが大事。出掛ける必要性や楽しさがないといけない。

篠田　効果が大きいのは居住人口を増やすこと。新潟市は街中でのマンション建設が進み、人口が5年間で2千人増加した。次の段階として、街中にどのような機能を加えていくか。例えば、憩いや緑の空間があってもいい。そういう意味では、街のにぎわいや魅力向上を図るライジングボラードを設置できた象徴的な意味は大きい。

久野　市長のコメントを聞き、国としてどのような感想を持ったか。

福浦　従来は地域振興は都市部と地方部と分けて考えていたが、全国共通の課題だという認識を強く持った。特に地方は人口が減少する中、街をコンパクトにしていく必要がある。ただ、規模をどうするかなど検討課題は少なくない。

菊池　中心市街地活性化は、商店街振興という観点から考えられていたのはご指摘通り。今は健康や福祉という観点から目を集めるライジングボラードは設置にいろいろな壁があって時間がかかる。欧州では当たり前のことがなぜ日本では難しいのか。

久保田　設置には新潟市でも約2年かかった。日本はしっかり考えてからじゃないと進まないという良いところがあり、新しいものに対して法律上どう位置付けるかの議論が必要。しかし、今後は「健幸」という考えが普及することで、進んでいくと期待している。

篠田　アメリカ型のマイカー社会がすり込まれているのが背景にある。日本では税金で道路を造るのは当たり前だが、公共交通に使うのは難しい側面がある。車を運転できない高齢者は、道路を使えない。税金を投入して公共交通を強化すべきなのに、日本ではなかなかそうならない。日本の常識をどう変えていくか。それには各都市で「そうした方が幸せになれる」事例をつくっていくしかない。

久保田　日本の公共交通は、実は民間の事業。一方、欧州ではバスや鉄道でもうけようとは思っていない。税金で動かすものだと思っている。今後、街の活性化や健康を考えれば、税金を投入して真の公共交通として動かす時代が来るし、来なくてはならない。

久野　車に依存しすぎていることで、さまざまな問題が出てきている。今後は、それぞれに特徴や歴史を持つ街中で自然と健康になれることが重要だ。市長からどんな街にしたいのか一言お願いしたい。

久住　見附市ではおおむね小学校ごとに地域コミュニティーをつくり、そこに住む人が誇りと愛着を持って暮らせるような組織づくりと意識変革を行っている。時間はかかるが、将来は幸せにも健康にもつながると思う。

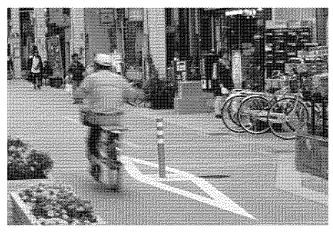
仁志田　高齢化で家族の形が変わっていく中、他人同士が家族のように暮らす高齢者のシェアハウスを街の中に造りたい。

篠田　日本一安心できる政令指定都市にするために、これからは新潟市が、国内では初めてだ。

車両通行を規制して歩行者優先の空間をつくることで街中のにぎわい創造を図るのが狙いだ。

車両通行が可能な午前8時から正午までは道路の下に潜っているが、正午から翌朝午前8時の間は路上に現れる。その間でも、許可を受けた車であれば、市から貸与されたリモコンで操作し、通過することが可能だ。

ライジングボラードは、市と公益財団法人「国際交通安全学会」による社会実験としての位置付けで、設置は来年2月28日までとなる。

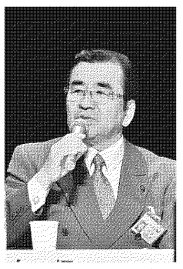


ライジングボラード

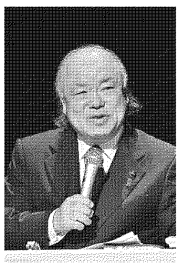
ポール昇降 車の通行制限

新潟市は自動昇降式の車止め「ライジングボラード」＝写真＝を中央区の古町通6番町商店街に設置した。時間によって自動的に直径8㌢、高さ約70㌢のポールが路上に現れ、物理的に車の進入を制限する。欧州では普及している。

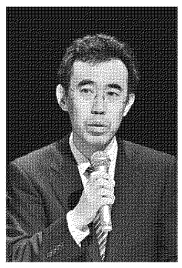
篠田昭氏



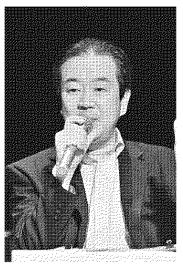
仁志田昇司氏



久住時男氏



菊池雅彦氏



福浦裕介氏

松崎利春氏

核となる施設不可欠
市街地の機能を充実
公共交通に税金投入

■出席者

久住時男氏	見附市長
仁志田昇司氏	福島県伊達市長
篠田　昭氏	新潟市長
松崎利春氏	新潟中心商店街協同組合理事長
福浦裕介氏	内閣府地域活性化推進室次長
菊池雅彦氏	国土交通省都市計画課施設計画調整官

■コーディネーター
久野譜也氏　筑波大学大学院教授

■コメンテーター
久保田尚氏　埼玉大学大学院教授

「スマートウエルネスシティ」
久野譜也・筑波大学大学院教授

世界保健機関（WHO）が発表したデータによると、死亡リスクの1番は高血圧、2番はタバコ、3番は高脂血症、4番目に身体活動量が挙げられている。つまり、運動不足が死亡の大きな原因となっている。

歩くことは血圧を下げ、高脂血症を防ぎ、肥満も予防する効果もあり、死亡リスクを下げる。普段は運動する習慣がなく、健康づくりに関心がない人たちに、生活の中でどうしたら歩いてもらえるか、そういった観点から街づくりを考える高齢者が増えることを考えれば、街の整備は急務だ。

車の使用を控えられるよう公共交通機関を整備するだけではなく、歩いて用事を済ませられるように街中の店舗を充実させるなどコンパクトな街づくりを進めることが不可欠となる。これから車の運転が困難になる高齢者が増えることを考えれば、街の整備は急務だ。

不便さこそが健康の鍵

便利すぎる社会のデメリットは科学的に証明されている。私たちはこれまで便利さを追求してきたが、一見不便であっても歩くことは健康で長生きすることにつながることを再確認してほしい。

パネル講演

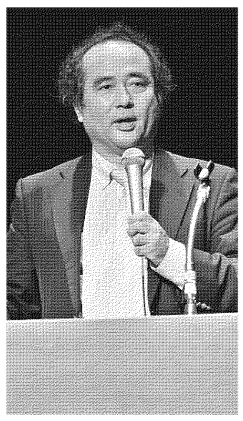
「まちづくりと歩行空間」
久保田尚・埼玉大学大学院教授

魅力ある都心をつくるには①安全・快適な歩行空間②自動車交通のコントロール③駐車場の量と配置④公共交通の充実⑤自転車にとっても快適な都心―という五つの整備が不可欠だ。理想にすぎないと捉える人が多いかもしれないが、欧州を実現している。平日でも多くの人でにぎわうなど経済的な効果もみられる。

では少なくはない。

ドイツのインゴルシュタットなどがそうだ。パークアンドライドや駐車施設を都心部の周辺に整備し、公共交通や歩行車道と直結するフリンジパーキングを組み合わせて、「歩ける都心」を実現している。

フランスのストラスブールなどで歩行者空間の確保に大きな効果を挙げているのがライジングボラードだ。規制から除外された車両と通行許可を持つ車両だけが通行可能で、無人で確実な規制遵守を促すことが可能だ。全国で初めて新潟市の公道でライジングボラードの社会実験が開始された。歩行者は常時通行でき、車両は時間などにより制限されるという新たな「天下の公道」という意識が広まるのではないかと期待している。



車両規制した「公道」を

銭湯でにぎわい創出へ　見附市

ソフトとハードの両面から、歩きたくなる仕掛けをつくっている。ハード事業では「健幸ウオーキングロード」「健幸サイクリングロード」を設定したほか、8月ににぎわい拠点として道の駅「パティオにいがた」をオープンした。従来の道の駅とは違い、地元の人と訪問者の交流や癒やしをコンセプトにしている。

2015年度には街中に銭湯を造る計画がある。日本が誇るにぎわい文化の象徴として、銭湯を核とした魅力向上に挑戦する。ソフト事業では12年に自律的に歩くことを基本とした街づくりを目指し「見附市健幸基本条例」などを制定した。

住民主体 イベント企画　福島県伊達市

東日本大震災と福島第一原発の事故により、健幸都市計画は一度は停滞したが、現在は市街地と中山間地からモデル地区を決めて、健幸都市実現に向けた取り組みを進めている。

市街地モデル地区では中心商店街に人を呼び込もうと、地域住民が主体となってウオークラリーなどのイベントを企画し、にぎわい創造に力を入れている。高齢化が進む中山間地モデル地区では、デマンド交通などを活用しながら歩いて暮らせる拠点をつくると同時に、景観と散策路を整備し、住み続けたいと思える街づくりを目指す。現在は計画をつくっている。

学生と連携し魅力発信　新潟中心商店街協同組合

大和新潟店の閉店といった中心市街地の空洞化に対応するために、2012年には八つの商店街と五つの大型店で構成する協議会を法人化して「新潟中心商店街協同組合」を設立した。

また同年、古町地区の活性化や課題をビジネス的手法で解決しようと「新潟古町まちづくり」という会社もつくった。昔ながらの文化伝統を守りつつ、若者を呼び込むような新しい動きを取り入れた「スマートタウン古町」の創造が狙いだ。現在はウェブサイトの立ち上げやイベント、学生と連携した「スマホでふるまち」など、さまざまな事業に取り組んでいる。

各市・団体の取り組み

BRT導入などを推進　新潟市

新潟市の課題は①超高齢社会②高いマイカー依存③少ない歩行量④バス利用者の減少だ。中心部が急速に高齢化していることを考えれば、今から対応していかないと間に合わない。

まずは健康づくり。健幸になれるまちづくり推進事業やいきいき健康づくりへの支援を通して年齢を重ねても健康な高齢者を増やしたい。

街づくりでは、BRT（バス高速輸送システム）導入やバス路線再編といった公共交通の整備・利用促進のほか、歩行空間や、街中での自転車環境の整備などを推進する条例を2012年に制定している。

読者の皆様へ感謝を込めて
月刊キャレル創刊20周年イベント
「大人の小さなバル」2日間限定オープン
in メディアシップ20階展望フロア
（新潟市中央区万代3-1-1）

メディアシップ20階。誰でも気軽に立ち寄れて、昼間の景色や、夕焼け、夜景を見ながらちょっぴりお酒を楽しめる2日間限定の「大人の小さなバル」です。ぜひ皆さまお越しください。

11/23（土・祝）11:00～17:00、18:00～21:30
大人の小さなバル1日目
希少なドイツワインを飲み比べ
グラスワイン300円からご提供いたします。
【協力】しんたみ酒店、新潟ドイツワイン協会、モーゼル・ザール・ルーヴァーワイン生産者協会
※18:00～19:45は「もっとドイツワインを知りたい人のためのプチパーティー」開催のため、バルスペースは小さくなります。

11/24（日）11:00～18:00
大人の小さなバル2日目
ビールからノンアルまで。あの味この味楽しめます。
【協力】アサヒビール新潟支社、キリンビールマーケティング新潟支社、サッポロビール新潟統括支社、サントリービア&スピリッツ新潟支店、しんたみ酒店

11/23（土・祝）・11/24（日）両日開催

フィンガーフード（軽いおつまみ）
誌面で登場したあの店の味を、どうぞ
オーベルジュ アンドラ モンターニュ（南魚沼市／フレンチ）、広東（新潟市中央区／広東料理）、シェ・ワタナベ（上越市／フレンチ）、新潟古町藪蕎麦（新潟市中央区／蕎麦）、BISTRO fleu fleu（新潟市中央区／ビストロ）、ライン（新潟市中央区／ソーセージ・ハム）、ほか

アイテム
誌面で紹介してきたお店や作家さんの商品も限定販売します

きぬがさマテリアルズ・上質な毛糸

浅記・二色使いストール

樫木工房・木の小物たち

◎ドリンク、フード、アイテムいずれも限定数のご用意です。売り切れの際はご容赦ください

11/23（土・祝）・24（日）

お問い合わせ
月刊キャレル編集室 TEL.025-284-7807（月～金曜10:00～16:00 ※祝日除く）
新潟日報社読者ふれあいセンター TEL.025-385-7444（平日午前9:30～17:30）
※お酒は20歳未満の方には販売できません。※飲酒運転は法律で禁止されています。●主催／新潟日報社、月刊キャレル

日本のげんきを、新潟から　MEDIA SHIP　新潟日報 LEADERS 倶楽部 2013
「新潟日報LEADERS倶楽部」PRESENTS

次世代リーダーを育てるヒントを探ろう

青島健太氏
講演会&協賛社トークセッション

「日本のげんきを、新潟から」のテーマのもと、県内74の企業・団体が集ってできた『新潟日報リーダーズ倶楽部』では、一般読者の方にもご参加いただける講演会を実施します。講師は新潟市サポーターズ倶楽部会長で、スポーツライター・TVキャスターの青島健太氏。また、リーダーズ倶楽部協賛企業の人材育成術を紹介するトークセッションもあります。次世代リーダーを育てるヒントを探ってみませんか。

11/22（金）午後1時30分～4時20分（開場午後1時）
新潟日報メディアシップ 2F 日報ホール 新潟市中央区万代3-1-1

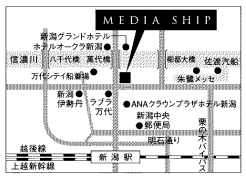
内容
①講演「組織を活かし、人を育てるマネージメント」
スポーツライター・TVキャスター　青島　健太氏
②トークセッション「次世代リーダーを育てる、わが社の人材育成」
セコム上信越株式会社 代表取締役会長　野沢　慎吾氏
株式会社福田組 代表取締役社長　太田　豊彦氏
●コーディネーター／フリーアナウンサー　伊勢みずほ氏

伊勢みずほ

入場無料
募集100人
新潟日報LEADERS倶楽部協賛社約100人も参加します

応募方法
代表者の郵便番号、住所、氏名、電話番号、参加人数（1通に2人まで）を明記し
●はがき／〒950-8546 新潟市中央区万代3-1-1 メディアシップ14F 新潟日報事業社
●ファクス／025（383）8028
●メール／leadersclub@nnj-net.co.jp
いずれも「リーダーズ倶楽部講演会」係と明記してください。
【締め切り】11月18日(月)必着。応募多数の場合は抽選。当選者のみ代表者に11月20日ごろまでに聴講券を発送します。
※お寄せいただいた個人情報は、聴講券の発送のみに使用いたします。

TRAFFIC ACCESS



●交通アクセス
新潟駅から徒歩約10分
※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

講師 青島 健太氏
1958年生まれ。新潟市出身。埼玉県草加市で育ち、小学生の頃より野球を始める。春日部高校から慶應義塾大学へ進学。東芝を経て、1985年ヤクルトスワローズに入団。5年間のプロ野球生活の後、オーストラリアで日本語教師となる。そこで知り合った人々との交流を通して、厳しいプロ野球生活の中で忘れかけていたスポーツをする喜びや、楽しみ方を思い出し、そのスポーツの素晴らしさの伝え手となることを決意。帰国後は、スポーツライター、テレビキャスターとして活躍し、現在はメディアを通して、スポーツの醍醐味を伝えている。

問い合わせ先｜新潟日報LEADERS倶楽部（新潟日報事業社内）TEL025-383-8010